20261112_周りを大切に　自分を大切に

今日は、二つの短い話をしたいと思います。

ひとつは学習の話。

体育大会も終わって、目前には定期考査が迫ってきていますが、準備は進んでいるでしょうか。定期考査では点数が出ますが、点数だけ見ていても何も始まりません。あくまで通過点です。どこができなかったのか。どこが理解できていなかったのか。今から何をすればよいか。まず自分で考え、いろいろな人の意見を聞きながら、考えをまとめて、実行していきましょう。それがわかることにつながり、本当の力が付きます。

二つ目は、自分と周り人との関係についてです。

以前、少しだけみなさんの前でも話しましたが、人との付き合いというのは難しいものです。それは大人でも同じです。お互いが慣れてくれば、なおさらです。

そこで考えてほしい、わかっておいてほしいことが二つあります。

ひとつは、自分にとって何気ないことでも、相手にとっては、そうではないかもしれないということです。

トラブルが起こった際、自分は大丈夫だからとか、ふざけただけだとかいう話を聞くことがありました。でも、自分のことだけで、相手のことを考えていないから、こんなことが言えるのです。自分ではなく、相手がどういう思いをしているかを考えられなければなりません。

もう一つは、笑顔でいるからと言って、心の中まで笑顔かどうかはわからないということです。残念ながら、笑顔を見せていても、心の中まではかり知ることは出きません。泣いているかもしれませんが、それに気づけていない人はいないでしょうか。このことは、相手の立場に立つことと言葉でいうことと実際にやってみることの差、難しさでもあります。

だから、みんな仲良くしてね、というつもりはありません。人には合う・合わないがあります。大人でも同様です。でも、本当の大人は、合わないからといって、相手に不快な思いをさせたりしません。相手にとっても自分にとっても無理のない距離を取りながら、親しくはならないけれど、いろいろな場面で話をし、意見も言い合いながら、関係性を結んでいきます。それが心遣いというものです。

また、人に対することを、必要以上に怖がる必要はないかもしれません。でも、心のどこかに、この二つのことを思っておくと、相手の表情や雰囲気を、今まで以上に感じ取ることができるのではないでしょうか。

最近は、人に寄り添うことが大切だと言われます。その通りだと思いますが、寄り添い方も人それぞれでよいと思います。言葉に出して気持ちを伝える人もいれば、ただ横にいるだけの人もいていい。

自分も相手もかけがえのない存在です。自分も大切にしないといけないし、それと同様に相手も大切にしてほしい。そして、自分も相手も安心できる関係が作っていければと思います。